様式１－１

文化遺産総合活用推進事業　実施計画

1 都道府県・市区町村名	宮城県気仙沼市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	気仙沼市における文化遺産を活用した復興まちづくり事業		
4 実施計画期間	平成　25　年度　～　平成　32　年度		

5 実施計画の概要

気仙沼市震災復興計画（平成23年度策定）を踏まえ、地域の文化遺産を次世代へ継承発展させ、震災復興まちづくりへ反映にさせるため、下記の取組を実施する。

また、事業実施期間中は、下記の取組を効果的に推進するため、文化・観光等の関係団体、地域住民、大学等の専門家と連携し、地域全体で文化遺産を保存・継承し活用していくための体制の確立を目指す。

①内湾地区（風待ち地区）の国登録有形文化財群の保存活用事業（案内リーフレットの作成
②文化財ボランティアガイド養成講座
③文化財公開の日事業
④ふるさとの民話のつどい
⑤けせんぬま学講座
⑥民俗芸能のつどい
⑦内湾地区（風待ち地区）の国登録有形文化財群の保存活用事業

6 実施体制

本実施計画に係る全体の企画・調整や、各事業に係る指導助言等は以下の担当課が行う。
教育委員会生涯学習課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等
産業部観光課：観光業務に関する連携等
また、補助事業は次の団体が実施する。
気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会
構成団体（気仙沼市、一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会、一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会、気仙沼市文化協会、唐桑大漁唄込復活推進実行委員会、煙雲館庭園文化保存会ほか）

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	（1）補助金額	～平成28年度交付決定額：　30,377 千円	平成29年度申請額：　5,007 千円
	（2）実施事業の概要	別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

○気仙沼市では、東日本大震災により多くの市民が被災するとともに、地域全体が甚大な被害を受けた。また、津波の被害を受けた沿岸部の文化財や民俗芸能など貴重な文化遺産も大きな被害を受け、地域文化の活力の低下やコミュニティーの停滞が懸念されている。

○このような状況を踏まえ、平成23年度に策定した震災復興計画では、地域の貴重な文化遺産を保護・活用し、次世代に受け継ぐため、民間機関、団体等の支援協力を得ながら、国県等と連携し被災した文化財の復旧等を推進するとともに、市民の心の支えとなる地域文化や民俗芸能を再興することが掲げられている。

○震災復興計画を受け、震災を契機として文化遺産の持つ可能性を再発見し、文化遺産を通じて、震災から復興の過程を学ぶ機会を提供する取組を行うことで、市民の文化遺産に対する関心や意識が向上し、着実に文化遺産を継承発展し、地域の活性化が期待できる。

○行政と民間団体、観光や文化関連団体による連携・協力体制の強化を図ることにより、地域の文化遺産の保存活用体制が再構築される。

○観光資源として文化遺産の活用を促進することにより、気仙沼市総合計画で目標（330万人/年）としている観光客の増加に寄与することを目指すとともに、地方創生戦略として推進する観光地経営（DMO）の一翼を担うことが期待できる。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

本事業の実施により地域一体となって文化遺産を保存・活用を図る機運を醸成する必要性は強く認識している。震災復興の途上ではあるが、平成30年度から地域の文化遺産の悉皆調査を行い、平成32年度を目途に歴史文化基本構想の策定を目指す。

12 担当部局

地方公共団体担当部局課	気仙沼市教育委員会生涯学習課（文化振興係）

7 実施計画における目標と期待される効果　別紙

目標区分１：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分１：	地域の文化遺産を活用した取組数（本事業の取組を除く）　（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標１：	市内で開催される文化遺産関連事業の取組数			関連事業:	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦	
目標値１：	平成　28　年度　5　事業　⇒　平成　32　年度　10　事業					
設定根拠１：	平成28年度開催事業数を基点とし、毎年度の取組数を1～2事業増と設定する。					
進捗状況１：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　28　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	
事業	事業	事業	事業	事業	事業	
目標区分２：	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分２：	地域の文化遺産への来場者数　（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標２：	市内の文化遺産、文化財への来場者数			関連事業:	①、③、⑦	
目標値２：	平成　28　年度　500　名　⇒　平成　32　年度　800　名					
設定根拠２：	平成28年度の来場者数500名に対し、毎年度0.5倍の来場者数を設定					
進捗状況２：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　28　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	
名	名	名	名	名	名	
目標区分３：	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分３：	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数　（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標３：	市内の民俗芸能保持団体の会員数			関連事業:	⑥	
目標値３：	平成　27　年度　800　名　⇒　平成　32　年度　800　名					
設定根拠３：	少子高齢化により伝承地域の人口減少が進んでいることから、現状維持を設定する。					
進捗状況３：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　28　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	
名	名	名	名	名	名	

様式１－１別紙②

8（2）実施事業の概要　別紙

事業①：	内湾地区（風待ち地区）国登録有形文化財群の保存活用事業（案内リーフレットの作成）		**実施団体：**	一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会	
事業区分：	情報発信		**事業期間：**	**平成** 27 **年度 ～ 平成** 32 **年度**	
事業概要：	内湾地区（風待ち地区）の歴史文化の魅力や文化財復原事業の取組が地域の復興や活性化の一助となっていることを広く市民や観光客に伝えるため、解説コンテンツとして、わかりやすい案内リーフレットを新規作成する。リーフレット配布により、地区内の文化財を巡る観光客等の人の流れを創出する。				
評価指標区分：	・その他			文化財への観光客等の人数	
具体的な指標：	文化財リーフレットを作成し、観光客等に配布することにより、文化財へ足を運ぶ動機づけになり、文化財を訪れる観光客等の人数				
目標値：	**平成** 29 **年度** 1,000 人 ⇒ **平成** 32 **年度** 1,500 人				
進捗状況：	**各年度、状況値、目標に対する達成率**				
平成 28 **年度**	**平成** 29 **年度**	**平成** 30 **年度**	**平成** 31 **年度**	**平成** 32 **年度**	**平成** 33 **年度**
人	人	人	人	人	人

事業②：	文化財ボランティアガイド養成講座		**実施団体：**	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会	
事業区分：	人材育成		**事業期間：**	**平成** 29 **年度 ～ 平成** 32 **年度**	
事業概要：	市民が文化財の親しむ機会や観光客が文化財をわかりやすく見学できるよう文化財ボランティアガイドを育成するため、ガイド養成講座を開催する。また、11月に開催する「文化財公開の日」を活用し受講成果の実践を行う。				
評価指標区分：	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数			**（具体的な指標は次のとおり）**	
具体的な指標：	ボランティアガイド講座受講修了者が継続的にボランティアガイドに従事する人数				
目標値：	**平成** 29 **年度** 20 名 ⇒ **平成** 32 **年度** 30 名				
進捗状況：	**各年度、状況値、目標に対する達成率**				
平成 28 **年度**	**平成** 29 **年度**	**平成** 30 **年度**	**平成** 31 **年度**	**平成** 32 **年度**	**平成** 33 **年度**
名	名	名	名	名	名

事業③：	文化財公開の日事業		**実施団体：**	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会	
事業区分：	普及啓発		**事業期間：**	**平成** 27 **年度 ～ 平成** 32 **年度**	
事業概要：	気仙沼市文化財保護強調月間の一環として、文化財所有者や関係団体と協力し、日頃見られない市内の文化財を一般公開する。市民の文化財に対する興味関心を高め、文化財愛護意識の向上を図るため、期間中に「文化財公開の日」イベントを開催する。また、文化財ボランティアガイドの育成事業と連携し、ガイド実践の機会を確保する。				
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			**（具体的な指標は次のとおり）**	
具体的な指標：	文化財保護強調月間事業の関連事業取組団体数				
目標値：	**平成** 27 **年度** 3 件 ⇒ **平成** 32 **年度** 10 件				
進捗状況：	**各年度、状況値、目標に対する達成率**				
平成 28 **年度**	**平成** 29 **年度**	**平成** 30 **年度**	**平成** 31 **年度**	**平成** 32 **年度**	**平成** 33 **年度**
件	件	件	件	件	件

事業④：	ふるさとの民話のつどい	実施団体：	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	地域に伝承されている民話を発掘し、その魅力や地域遺産としての民話の意義や価値を考え、市民の民話伝承活動の機運を高める。		
評価指標区分：	・その他		本事業以外の取組数（活動）
具体的な指標：	地域（公民館等）における民話を活かした自主活動取組数（講座、民話の会等の活動）		
目標値：	平成 26 年度 1 件 ⇒ 平成 32 年度 4 件		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
件	件	件	件	件	件

事業⑤：	けせんぬま学講座	実施団体：	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	東日本大震災をきっかけとして、市民の歴史文化や過去災害史などへの興味関心の高まりを受け、地域の密着したテーマを設定し、専門家を招へいした地元学講座を開催する。		
評価指標区分：	・その他		講座修了者の後年度活動者数
具体的な指標：	けせんぬま学講座受講修了者のうち、自ら学習機会し活動を行っている人数		
目標値：	平成 26 年度 30 名 ⇒ 平成 32 年度 50 名		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
名	名	名	名	名	名

事業⑥：	民俗芸能のつどい	実施団体：	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	気仙沼地域の民俗芸能を一堂に会したフェスティバルで、保持団体の芸能の公開発表の機会を確保するとともに、後継者育成支援を目的とする。民俗芸能の専門家による解説や保持団体代表者等と専門家とのトークを交えて公演効果を高める。また、出演団体や市内の民俗芸能を解説パネルの作成展示を行い、民俗芸能の普及啓発を図る。		
評価指標区分：	・フェスティバル出演団体の保存会会員数		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	民俗芸能のつどい出演団体の会員数		
目標値：	平成 28 年度 120 名 ⇒ 平成 32 年度 120 名		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
名	名	名	名	名	名

事業⑦：	内湾地区（風待ち地区）の国登録有形文化財群の保存活用事業	実施団体：	一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	震災で損壊した内湾地区（風待ち地区）の国登録有形文化財は、国内外の支援により修復復原事業が進められている。これらの歴史的建造物の文化財としての価値を再認識するとともに、観光資源としての文化財の活用を推進し地域の活性化を図る。昨年度に取り組んだ「風待ちミュージアムプラン」をもとに、復興の象徴となる文化財やまちの軌跡を巡る「風待ち地区ヘリテージウォーク」の開催や、「国登録有形文化財の修復・復原現場見学会」、復興の取組の記録展示、文化財を核とした内湾地区の魅力を発信するコンテンツの開発及び観光客等の受け入れ体制の検討を行う。		
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）		
具体的な指標：	地区内外において本事業の協賛協力団体による、本事業に関連したイベント等の取組を開催した団体数		
目標値：	平成 28 年度 3 団体 ⇒ 平成 32 年度 8 団体		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
団体	団体	団体	団体	団体	団体